

笑

高木小学校 ALTと 英語活動

「エブリバディ、レディ
「エイース」
高木西町の高木小学校。二時間目、四年生の教室で英語活動が行われていました。教壇に立つのは日本語在歴八年の外国語指導助手(ALT)のプラントさん。流ちょうな発音での呼び掛けに、児童が元氣よく答え、自然と口に出る自己紹介や日常あいさつ。テープや教科書は使いません。英語活動担当の吉田まき子教諭と一緒にカリキュラムを作ります。

この日は地図上に置いた人形を、目的地に誘導するゲームをしました。児童は五人ずつのグループに分かれ、説明役の児童が、英語で目印となる店や方角を伝え、必死です。
「外国人が一方的に英語を教える意味がない。児童がお互いに英語で話してこそコミュニケーションになる」と、プラントさんは

意義を説明します。
西宮市は二〇〇四年にはALTを市内全小学校に派遣しました。英語活動モデル校の高木小では、昨年四月から三、六年まで週一回の英語活動が実施されています。放課後には保護者のボランティアによる英語クラブ指導も行われ、学校全体で英語を学べる環境を目指しています。

笑いが絶えないプラントさんの授業 = 高木小学校



児童同士での会話を重視

楽

鳴尾南中学校 日本語教室

鳴尾南中学校(高須町一)三年の小南美紀さん(五)はタイなどで育ち、二年前に編入してきました。
当初は「先生の話す内容が全然分からなかった。まるで一人だけ違う世界にいるみたいだった」と振り返ります。

鳴尾南中学校では毎週火曜日の放課後、小学校一年から中学校三年までの四人が学んでいます。小南さんは今、漢字に加え学習言語も学んでいます。「楽しくやれば、日本語は全然怖くなんてないよ」。

教室では、様々な教材を使い日本語だけで指導する「直接法」が採用されています。買い物風景を描いたカードを使い、スパーで店員とやり取りする場面を



マンツーマンで指導する日本語教室 = 鳴尾南中学校

想定。お金の数え方や品物名を学び、「おせち料理」といった日本の生活習慣や文化も学びます。

課題もあります。日常言語は平均一、二年で習得でき

ますが、教科書やテスト問題に出てくる学習言語は五年以上が必要とされるよう、研究・研修を深める必要があります」と指摘

絵やカードで習慣も学ぶ

華やかな韓国・朝鮮の伝統音楽や舞が披露された全校集会。上甲子園中学校



在日コリアン誇りの「舞」

「生まれてから十八年間日本人の名前で暮らしてきました」。
在日韓国人三世の金園恵(きむ・うあね)さん(三九)の言葉に、生徒たちの表情が真剣になりました。
上甲子園中学校(上甲子園四)でこのほど行われた全校集会の一幕です。韓国の伝統舞踊と演奏に取り組みグループが舞台上で演技を披露。その後、在日韓国人のメンバー七人が、自らの半生を語りました。

金さんは西宮市出身。幼少から日本名を名乗り、「親友にも出生を明かすのが怖かった」と振り返ります。しかし高校三年のとき、教諭の指導に刺激を受け、本名で生きる決意をしました。別のメンバーは「祖国への誇りを表に出すのは勇気がいった」と訴えました。「同じような人が、近くにいることを知って」。
同校の生徒も舞台上上がり、チマ・チヨリに身を包み、鉄板状の太鼓「チン」など伝統楽器の演奏を体験しました。メンバーは朝鮮半島の年中行事に欠かさない「プンムル」を華やかに踊り、両民族の共存を願う、韓国の民謡「アリラン」、日本の民謡「赤とんぼ」を歌いました。

輪

上甲子園中学校

地域と連携し環境整備を

創

研究発表会 県内外から 教員350人

国際教育は学校現場でどう実践されているのでしょうか。西宮市の実践と研究成果を発表する国際教育研究発表会「共存・共生・共伸を目指す国際教育の創造」が一月二十八日、甲陵中学校(上甲東園二)を中心に

開かれました。県内外の教員など約三百五十人が参加しました。
この日、公開授業や公開保育に続き、午後から行われた全体会の概要報告では、各校園で国際教育担当者

を派遣して中学、高校の英語、中国語の授業を行っていることが紹介されました。
また保護者や近隣の大学との連携、帰国・外国人児童生徒の体験入学や転入・編入手続きを円滑にするために六言語対応の手引き書を作成するなどの取り組みも発表されました。

次に国際化推進センター校より、日ごろの生活適応・進路相談業務について、また帰国・外国人児童を生かす授業作り、「環境や平和をテーマとした国際教育」など実践例を通して紹介されました。

各発表の中では、学習言語の指導や学年のつながりを意識したカリキュラム作りの必要性など、今後の課題にも触られました。

指導助手(ALT)を派遣して中学、高校の英語、中国語の授業を行っていることが紹介されました。
また保護者や近隣の大学との連携、帰国・外国人児童生徒の体験入学や転入・編入手続きを円滑にするために六言語対応の手引き書を作成するなどの取り組みも発表されました。

【市内の主な実践例】
●春風幼稚園年長クラス...「おイモまつりをしよう」ブラジル国籍の女の子が地域の祭りに参加し、サツマイモの収穫祭をする。その後、女の子の国のカーニバルについて勉強する。
●小松小学校5年生...「コマツショッピングモールでお買い物しよう」児童たちが仮想店舗を作り、英語で商品の売り買いをする。グループで店を開き、買い物に必要な英会話を学ぶ。
●甲陵中学校1年生...「アルミ缶から見える世界」フィリピン人のゲストティーチャーに同国の現状を話してアルミ缶の回収活動が現地で行われているかを知る。

その保護者たちの交流会について報告が行われました。小中学校の部会では、「担任が一人でできる英語活動」「帰国・外国人児童を生かす授業作り」、「環境や平和をテーマとした国際教育」など実践例を通して紹介されました。